遭難事故防止啓発活動（御在所岳）　　実施報告書

遭難対策委員長　　中川邦仁

令和２年１１月８日（日）御在所岳に至る３つの登山口で、作成したチラシを配布しながらこれから入山する登山者に遭難事故防止を呼び掛ける活動を実施しました。

今年はコロナ禍により多くの事業が実施出来ない中、遭難対策として何か出来る事はないだろうかと考えていたところ、ある理事より『登山口での呼びかけをやってみませんか』と提案があり、当日は８名の理事の方にご協力して頂き規模は小さいながら行う事が出来ました。折しも前日に参加した鈴鹿山系連絡協議会にて三重岳連の方々も当日鈴鹿山系の各登山口でで大々的に行う事を知り、ご一緒に活動させて頂くことになりました。

当日は鈴鹿スカイラインの駐車場に６時半に集合でしたが、すでに駐車場は満車状態。道路脇の駐車スペースは遥か下まで埋め尽くされていて、秋晴れの登山日和で紅葉と自然を目当てに、ファミリー登山から、トレイルランナー、常連のクライマーまで多くの登山者がこの山域に訪れていました。

７時頃より、中道登山口、裏道登山口、朝明渓谷　にて２～3 名ずつにわかれて活動。
単独での登山や道迷い、非常装備の携帯など特に注意を呼びかけました。またコロナ禍における登山様式どのチラシも配布し関心を持って頂けるようにしました。意外だったのはほとんどの登山者が地図を持っておらず、多くがスマホの地図アプリなどで、観光マップや中には何も持ってない方もいて少し驚きました。9 時頃までの 2 時間程の活動でしたが、まだまだ登山者が途切れる事なく上がってくる様子で登山の人気の高さがうかがえました。

次回は他県の岳連の方とも連絡をとりながら準備を進めていければさらに良い活動が出来るのではないかと思います。

中道登山口にて三重岳連、県警の方々と